

Vol.13
2009.5

ナラヨム。



ならでつくる
—火に酔いしれる

ナラヨム

第13号 2009年5月15日発行

発行者●ナラヨム発行委員会 発行責任者●乾昌弘 企画編集●奈良県立図書館



特集1
 ならでつくる
 火に酔いしれる



▲月山貞利氏作

「火に鍛錬される、日本刀の美と精神性」

〜八百年の伝統ある月山刀工の技術と、日本刀に見る日本人の精神性〜

刀工：月山 貞利氏
 奈良県無形文化財保持者
 全日本刀匠会顧問



千田

海外では武器が芸術作品まで高められたものは無いでしょう。日本刀は非常に神秘的で、日本固有のものですからね。

月山

こちらは、よくおいで頂きました。最近はいろいろな方との出会いがありまして、特に海外の方のご訪問が多いです。ついこの間もロシア、セルビアの方などが来られて、日本刀を所望されています。海外メディアの取材も多く、父の代ではBBCや、現在でも各国のテレビなどで紹介されています。「日本の心」、「武士の魂」を捉えたいということだと思えます。日本刀は日本を代表するものとして、非常に関心があつて、有り難いことだと思つています。

千田

今日はお忙しいところ、失礼します。

世界に愛される日本の美

月山

日本にいてもなかなか実物を目にする機会は無いと思います。ここに来られる方々は、もつと国内でも展覧会をしてほしいとおっしゃいます。

千田

子供さんなども目にする機会はないでしょう。

月山

刀の好きな方は多いですが、愛好者も高齢化してきています。若い方々にも、もつと日本刀の良さを知っていただきたい。刀は「怖いもの」という先入観はすててもらつて、世界に誇る大切な日本文化として伝えていきたいです。日本刀は、鍛錬して錬つてあるので耐久性もよく、滅多に折れたり曲がったりしないものです。武器としての実用性と同時に刀匠の技が表現されている芸術品です。



▲対談風景/右：月山貞利氏 左：千田館長



ナラヲヨム Vol.13

CONTENTS

16	14	12	11	08	01
編集後記	・企業人に聞く 株式会社明新社 代表取締役社長 乾昌弘氏	連載 ころろを描く ・なら国際映画祭 第3回プレイベント 「祈りの時代」を考える	・奈良の街角 ・奈良市三碓 図書情報館トビックス	若い奈良 ・嘶家 桂文鹿	特集 ならでつくるー火に酔いしれる ・火に鍛錬される、日本刀の美と精神性 ・火の神の祭り

神の宿る山 三輪山と月山

千田 月山家は、鎌倉期からの刀匠の名門ですが、山形にはもう月山鍛冶の方々はいらっしゃらないのですか。

月山 遠い親類のみで、月山派の刀工はもういないです。山形県の河北町谷地に月山刀工の顕彰の碑が建っています。幕末に私より五代前の月山貞吉が、大阪に出てきました。谷町4丁目あたりに住んでいたのですが、30年程前に静かな環境で刀に没頭したいと、父の代にこの三輪山の麓に移り住みまして、現在に至っております。

三輪山もご神体ですが、月山も羽羽三山のご神体ということで山岳信仰の対象になっていきます。古来、月山鍛冶は、月



庭園▲

く、刀剣彫刻をしたり、仕上げ工程を作業いたします。冬は、逆に、刀を打つという鍛錬の季節になる訳です。すべての工程が終われば、刀を登録しますが、それには銘を入れなくてはなりません。銘を彫って登録するには、やはり良いものしか残せない。何でもかんでも残すわけにはいかない。世に出すとすると、作者としては納得いくものしかだせない。百年、二百年後の人に「ああ、月山貞利は立派な作品を残したな。」と言われたいですね。鎌倉時代の名工「正宗」を目標にして、日々鍛刀に精進しています。

千田 でも心血注いで、立派なものをお作りになって、いざ手放すとになると寂しい気がするのではありませんか？

月山 手元に置いておく作品は、ごくわずかです。有り難いことですが、皆さまに作品を待っていただいているので、できるだけ良いものをお届けしたい。何年か待っていたら、この時代には有り難いことです。



▲月山貞伸氏作

山に登り、身を清め、行をして、刀を打ち、それを腰にさして山伏となって全国を行脚したということです。そして、遠く三輪山にも訪れていたということですが、父貞一が移り住んだ後に地元の方に教えていただいたのですが、万葉集に詠まれる狭井川の上流に月山谷というところがございまして、ご先祖様が山形からここまで修行に来ていたゆかりが地名に残っているようです。父も、そのような経緯も知らずに偶然こちらに住むことになったことを、不思議な縁と驚いていました。

千田 今も作刀する前に、何か特別な儀式とでも言いますか、されておられることとかあるのですか。例えば、神道的なこととか。

月山 身を清めると言う意味で、白装束に着替えまして、作業に取りかかるのが習わしです。奉納する刀剣を打ち始める時などには、特別に身を清めて、行をしてから打ちます。祖父貞勝の代では、神前で打つということがありまして、大阪の生玉神社本殿の前で、神刀を打っておりまして。また祖父が皇室に納めるものを打つときには、毎朝、参拝してから打つたそうです。

日本古来の材料と製法が生み出す日本の美

千田 日本刀の材料となる鉄で、島根で玉鋼というものが産出されている。そうですが、こちらではそれをお使いなのですか？

月山 そうです。玉鋼は日本刀の材料です。全国の刀鍛冶がこれをつかっています。玉鋼（たたら）製鉄といて、大変な作業で精錬されるものです。かなりの技術が必要とされる日本古来の製鉄法です。大きな炉で、砂鉄と木炭を交互に入れる、三日三晩徹夜作業です。最後に鋳（け）らができるのですが、それが日本刀の材料になるのです。国産の鉄は、非常に粘りがある、純度が高く、日本刀の美しさはこの原料から産み出されます。刃物としては、現在はスウェーデン鋼などのほうが鋭利なものができるかもしれませんが、それは包丁とかナイフの世界ではよいかもしれませんが、芸術性のある作品はできない。実用性だけでなく、美術品としての価値、日本刀として鑑賞で



▲玉鋼

千田 現在、伊勢神宮の式年遷宮の新刀を製作されているとか。

月山 ええ、お伊勢さんに、御刀をご奉仕させていただいています。20年ごと、直刀が約50振と、矛が約40振を奉納するのですが、全国の優秀な刀鍛冶が分担して作刀しています。

作刀への想い

千田 一本の刀を完成させるには、どれくらいの期間がかかるものなのですか。

月山 一年がかりというのが大半ですが、それ以上の時もあります。一年に1振りというわけではないので、何本か平行して作っているのですが、完成までにはどうしても1年かかってしまいます。1振りの刀を打つにもなかなか順調にはいかない。3、4振り打って焼き入れをして、そのなかから出来の良いものを選び、仕上げしていく訳です。そんなことをしていると、1、2ヶ月はあつという間に過ぎてしまいます。また、その1年をとって、季節、季節に合った作業をします。夏は、やはり暑いので、火の仕事ではな

きる味わいの深さ、日本の美意識、芸術性を表現するには日本古来の玉鋼が必要なのです。

千田 1振でどのくらいの鋼がいるのですか。

月山 10キロぐらいです。それを鍛錬して純度を上げてより硬く、より曲がりやすく仕上げていくのです。月山派特有の「綾杉肌」はその鍛錬工程で出来てきます。1300度に熱して、何度も鉄を折り曲げて層を作っていくのですが、打って伸ばして真ん中から切って曲げて、また打って伸ばして切って曲げてを繰り返す。幾層にもなったものが、最終的に模様になって現れるのです。焼入れの工程では、カーテンを閉めて部屋を暗くします。それは温度の加減を火色で見ると、刀全体を熱して、全体が十分赤くなったところで、一瞬にして水中に入れます。すると刃の厚みの差が膨張率の差となって、自然に反りが出ます。それを何



▲綾杉肌



▶反り



▲焼き入れ

本が打つてその中から出来の良いものを選び上げていきます。こういった仕事は今までは秘伝だったので、めったに部外者の方には見せませんでした。今は大勢の人に伝統の技を見てもらおうのも大事だと考えています。刀を見る機会も少ない、工程もわからないでは、世界に誇る日本刀の良さが後世に伝わらないでしょうから。今日は、せっかくなので焼き入れをご覧になってください。と思っています。

千田 それは光栄です。火力は、やはり炭です。

自分が最後かなあと心配していました。しかし、有難いことに、若い後継者のために「たたら製鉄」が約30年前に復興したのです。今では、文化庁の保護のもと、安定供給されており。高根県出雲地方の不純物の少ない砂鉄を炉に入れての「たたら吹き」製鉄は、1月から2月にかけて出雲地方で行われています。作業する人は、国選定技術保存者となっています。

刀剣に見る日本の精神性

千田 ヨーロッパの刀はシンプルだが、日本刀は非常に美しいものですね。思ったよりもすっきりしていますが、これに拵えをするととなると大変ですね。刀剣を見ると、本当に心が落ち着きます。でも、これでやられたら終わりだなあ。(笑)

月山 緊張感の中に、何ともいえない美がある。日本人は、刀剣に対する考え方が違います。実用一辺倒ではありません。話



月山 そうです、松炭を使います。柔らかくて火力が強いからです。炉の中で鉄を回したり、いろいろ作業をします。硬い炭ではだめです。地方では、今でも松炭をよく焼いているのですが、刀1振りに炭俵を10俵以上使います。

伝統を受け継ぐ若い情熱

千田 大変な作業ですね。何人でやっておられるのですか。

月山 私の息子も、八百年の伝統ある月山刀工の後継者としてその使命を感じているようで、一緒にやってくれています。現在、他に住み込みの弟子が3人います。一番年長が27歳、年少が21歳。今時このように若い弟子を、抱えるのは大変です。



▲月山貞伸氏

千田 日本のものでづくりの原点がありますね。刀も鏡も日本人の精神性、細やかな感性が現れていると思います。この細やかなものでづくり精神が、やがて中小企業になり、大企業になっていくわけですが、大企業は当初の精神を忘れてしまつて、リコール製品を出したり緊張感がなくなっている気がしてなりません。

月山 刀も武器としての機能を果たせば良いわけですが、そこに日本人の美意識が表現されています。鎌倉には鎌倉の名匠、大和には大和の名匠というように全国で名匠が



千田 本当に若い方ばかりですね。将来が楽しみです。

月山 私などは、今時こんな特殊な世界によく来るなあと思いますが。(笑)「どうしてもやりたい」という子。「普通の社会人になるのではなく、何か作って世に残したい」と言う子。「中学生か高校生の時に美術館や博物館に行つて間近に見た日本刀の美しさが忘れられなくなつた」という子。「一度見て、日本刀の魅力に取り憑かれたようになった、頭の中から離れなくなつた」という子。そう言つて自ら志願し、弟子入りを希望してここに来た子ばかりです。それならばと両親を連れてきてもらつて話をします。こちらも大事な息子さんを預かる責任がありますから。20代の若い人が伝統を受け継いでくれると思うと有り難い、本当にうれしいです。私の若いときは、鹿兒島から弟子入り希望者が来ましたが、断つた辛い経験があります。それはもう大変な時代で、原料の玉鋼が生産されていなかったのです。刀鍛冶をやつていくのにその材料がないとなるとどうしようもない。親がいくら人間国宝とはいえ、親の元で修行していてもとても不安な時期がありました。父も伝統ある月山刀工も

出現しすばらしい名刀が作り出されてきました。そして今日、伝統技術の中にも、刀匠として、現代の自分の作品を作つていかなければならないのです。日本人の魂が宿っている刀をこれからも打つて行きたいですね。

千田 今日楽しくお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

月山日本刀鍛錬道場・記念館
 〒633-0073 桜井市大字茅原228-8 TEL. 0744-42-3230
 ●3月～11月(8月休館) 土曜日のみ開館
 午前10時～午後4時
 ●無料

特集2
 ならでつくる
 火
 に酔いしれる

「火の神の祭り」
 往馬大社の火祭り

往馬大社は火の神事「火祭り」がおこなわれるなど火との関わりの深い神社である。

火はかつては木の摩擦により生み出されていた。生駒の神は火を生み出されるのにつかわれる「木の神」であり、そういったことから往馬大社の祭神である伊古麻都比古神・伊古麻都比売神とともに「火の神」として祭られている。

生駒山はかつては火山であり、そのことも関わりがあるのかもしれない。

火をおこすのに用いられる木は「火燧木」（ひきりき）と呼ばれる。大嘗祭（天皇即位の後おこなわれる皇室行事の一つ）には往馬大社より献上される「火燧木」がつかわれる。

めに分けてもらう人もいるそうである。かつては火を守るために籠もって番をしていたそう、その際の食事などにもこの火をつかい、役目の者以外立ち入りを禁じていたということもあった。

火祭りのときには、多くの観客が境内に押し寄せる。特に本祭りで一番注目されるのが「火取り」である。着火した一抱えもある大きないまつを二人の火取り役が高座より石段を駆け下りる儀式。このたいまつは境内にたてられた大たいまつに着火する。大たいまつには御串（ごし）というスキの束がたてられており、着火した瞬間に一瞬にして燃え上がる。

この儀式の意味ははっきりとはわからないが、高座より燃える火をおろすことから火を



▲ゴゴウシのささった大松明



▲松明をかついで走る火取り



▲火取り



▲参拝者でにぎわう往馬大社



▲ひきりきとよばれる御神木

うである。この際の火燧木は御神木の「上溝桜」がつかわれる。

火祭りの神事の前一週間は木からおこした火を常に絶やさず燃やし続ける。この火は御神火ということで地元の祭りなどの行事のた

神様から人に振る舞うといった意味合いがあるのかもしれない。

ガス・電気がなかったころは火は重要なものだった。もちろん、昔も日常的に利用されていたのだろうが、いまほど手軽ではなかったはずである。ゆえに火は神様からの授かり物という考え方もあったのかもしれない。

往馬大社では火を守り、火を伝える儀式がいまも守られている。

往馬大社
 〒630-0222 生駒市吉分町1527-1
 TEL. 0743-77-8001
 ●往馬大社火祭り
 10月11日（日）午後2時～



桂文鹿 KATSURA BUNROKU

上方落語協会、関西演芸協会、松竹芸能所属。昭和44年11月17日、奈良市出身。大谷大学文学部を5年で卒業、平成6年、桂文福師に入門。「桂ちゃん好」の芸名で初高座。噺家の傍ら、プロボクシングの選手としてリングにも上がり、人を笑わせる仕事と殴る仕事の両方をこなしてきた。31歳でボクシングは引退。平成16年に一門で空き名になっていた文鹿に改名。文鹿の「鹿」の字のつく市町村で「落語でめぐる鹿の町」と題した落語会を開催。落語の他にも塩路鐵砲水師のもと「河内にわか」という郷土芸能の伝承にも力を注ぐ。NHK上方演芸ホールでの放送で浪速花形五人衆の大喜利メンバーとして番組出演中。



「大仏に、鹿の巻き筆、奈良晒、奈良茶、奈良漬、奈良の噺家」

若い奈良 No.13

1300年の伝統をもつ奈良。長い歴史に新たなページを創る若い力があります。新しい風の“今”をお伝えします。

噺

家になって早くも15年の歳月が経ちました。17歳のころに相撲の行司さんに憧れて、ようやく重い腰を上げた頃には既に入門の制限年齢を超えていました。時計の針を戻すことはできません。ならば次に興味を湧いたものに乗っかってみよう、それが落語でありプロボクサーの世界でした。しかし両極のプロの世界を同時にこなすことは、「二兎を追うものは」の例えの通りどちらも中途半端になってしまったと、

と談四楼師含め超満員であふれかえった観衆の前で見事なKO初勝利。私はプロのリングでは一勝もあげずに引退しましたが、彼の勝利を観戦出来たことは、まわり回って人と人とのつながりを実感した出来事でした。
□話を奈良に向けたと思います。
桂米朝師匠が「土橋万歳」という落語の中で「昔、大和の丁稚さんは大坂の丁稚に比べて真面目で辛抱強かった」と話されます。これは、地形的に生駒の山脈に隔てられ帰るに帰れん、いわば我慢するしかない

40歳を前にしてようやく素直に振り返れるようになったと思います。だんだん、落語の高座を疎かにすることが、この時期をいかに勿体なく過ごしている事と思うようになり、またそうした時の自分を恥じたり、そうしている人を腹立たしく思えたり。でも私が噺家兼プロボクサーとしてリングに立っていた頃、己の拳ひとつに人生を賭けて闘っていた選手達にとつて私の存在はそれと同じく腹立たしく写つたに違いありません。

私が噺家ボクサーだった頃、一度も面識のない東京の落語家で立川談四楼師匠から突然の電話が。談四楼師匠は噺家はもちろん小説やエッセーなどの執筆家としても活躍しておられ、落語家がプロボクサーと二足のわらじを履いて世界チャンピオンまで昇りつめたうえ、空虚な人気に葛藤していく有り得ない様を描いた、「ファイティング寿限無」なる小説を出版された折、上方落語にはそんな馬鹿な事を現実に行っている奴がいる、是非一度話してみたいと、たいへん親交深くさせて頂き、それから月日が経ち今度は談四楼師匠の御息で高田小次郎氏（六島ジム）がプロボクサーになり、私



イメージ写真

かったことが県民性に出ているんやろうと説明が加えられています。現在奈良県出身の噺家は江戸、上方を合わせても650人ほどいる中でわずかに8人ほど。大阪、兵庫はもとより近隣の京都、滋賀、三重、和歌山などと比べても断然少ない数字です。また奈良出身の噺家を見てみると米朝師匠の話にあった様に真面目に我慢強くコツコツやるタイプの方が多いようで、逆にい



奈良の街角 第7号

奈良市三碓

奈 良市の西部、近鉄宮雄駅の南には「三碓」という地名があります。奈良には難読地名が多くありますが、ここも読み方がわかりにくいところで、「みつがらす」と読みます。根聖院というところ

ろにこの土地の地名の由来となった石があります。この石には三つのくぼみがあります。これは「からうす」（搗き臼の一種）にふかつていたそうので、この石で三つの「からうす」がつかわれていたようです。「うす」というには穴の大きさはそれほど大きくはありませんが、日常の食事の支度などにつかわれていたようです。1300年前にこの地をとおった聖武天皇がこの「からうす」で米をついでいるところを見てこの地を「三碓」と名付けたという話があるそうです。奈良に多い難読地名ですが由来をたどっていくといろいろとおもしろいものに出会えるかもしれません。

図書館トピックス

図書館では、今年度、「世界音楽紀行―祈り―」と銘打ち、世界の宗教音楽をお楽しみいただきます。第1回は、さる4月4日、2階メインエントランスホールにて奈良県出身の音楽家 吉桑道子さんをお招きし、「ふるさとの



春に歌う―花と神への祈り―ソプラノコンサートを開催しました。前半はさくらさくらや平城山など日本の歌曲を、後半はゴスペルが披露されました。吉桑さんはゴスペルを歌うためニューヨークのハーレムに住んでおられたそうです。当日は佐



保川の満開の桜並木を背景に、200人を超える方々が、その美声に酔いしれました。次回第2回は、5月31日（日）に、プリー・アナピアンさん、バーラム・サーラングさんによるベルシャの古典楽器サントゥール、セタールによる「ベルシャー祈りの音楽」を開催する予定です。普段耳にすることの少ない祈りの音楽にぜひ触れてみてください。

WAKAI NARA

6月より『図書館寄席 鹿乃芸亭』が始まります

奈良県出身の桂文鹿さんがプロデュース。
●開催日：6/13(土)、8/16(日)、10/10(土)、12/19(土)、2/13(土)
●開演：13:30～(開場12:30)
●会場：1階交流ホール
主催：図書館集う会 共催：図書館情報館

第1回は6/13(土)です。ただいま、申込み受付中。
●料金：1,000円（お一人様）
お問い合わせ、お申込みは図書館情報館まで。



「あほなこと、真面目にやっつて五十年」
私も良い意味で落語家における県民性から

えは破天荒さが無い分、派手さに欠けるのも否めない事かも知れませんが、それを踏まえて言うならば、かつて、前・上方落語協会会長の露の五郎兵衛師匠が芸能生活50年の節目の色紙にこんな一筆を添えられてました。

の脱皮が必要かと考えますが、この文章を書きながらいざ読み返してみると、またこれも県民性かとひとりでも可笑しく思えてきました。でもそれが奈良の魅力なのかな。他を真似ることなく奈良独自の時間の流れがある。だから今の奈良がある。その気長な部分。時には負の材料にもなるが、奈良と奈良出身の噺家は共に歩んでいる気がするのです。猿後家、鹿政談など奈良が舞台になったり、奈良に関係する落語は、人に負けないものに仕上げたいと常々思っていますね。

「大仏に、鹿の巻き筆、奈良晒、奈良茶、奈良漬、奈良の噺家」





声明

第2部のトークショーも第一部同様に参加者を釘づけにしたようです。山折哲雄氏(宗教学者)の平易な語り口で説かれた哲学的な宗教の捉え方に目から鱗が落ちたと感想をもらした人がいました。茂木健一郎氏(脳科学者)のテレビでは視聴できないようなユーモア溢れるトークに時々会場がどっと沸きましたが、現代人の「覚悟の無さ」に痛烈な批判が加えられたときは、場内が水を打ったように静まり返ったのが印象的でした。山折氏の「奈良の空は広い」と茂木氏の「奈良は文明の発祥地」の礼賛は、地域の人々を大いに鼓舞したようです。両者を前に河瀬直美氏(映像

奈良の空は広い(山折氏)

奈良は文明の発祥の地(茂木氏)



主催者としては、休憩を挟んで上映される南アフリカの映画「My Secret Sky」

次回のイベントをも楽しませていただきます。

があるようなイベントは初体験です。その空間にいられる幸せを感じました。

作家)も自己の生い立ちのことや映像づくりへの思いを熱く語るにより、聴衆に新たな河瀬直美像を与えたことでしょう。

は、参加者の半数が帰られるのではないかと懸念していましたが、しかし、この映画のプロデューサーや監督が遠路遠々ヨハネスブルグから奈良に来て、舞台挨拶するということもあり、殆んどの人たちが映画を最後まで鑑賞してくれました。結果、映画に対する評価も大変高く、主催者も驚くほどのものでした。これは、南アフリカという国があまりにも馴染みがなく、参加者の事前の興味をかき立てたのかも知れません。鑑賞後の感想文に、「いかに遠い未知の国であってもヒューマニズムに相違がないことを思い知らされました。笑いがあり涙がある限り人間は人間なのだ」とつくづく感じました」というのがありました。「なら国際映画祭ですぐれた作品が沢山紹介されることを今から楽しみにしています」との追記もありました。



トークセッション/左から、河瀬直美(映画作家)、茂木健一郎(脳科学者)、山折哲雄(宗教学者)

去る3月7日、NPO法人なら国際映画祭実行委員会は第3回プレイベントを開催しました

会場となった奈良県文化会館は千数百名もの参加者で溢れるほどの盛況となりました。来年の秋に予定されている(第1回なら国際映画祭)の告知活動として実施されたイベントであったにも拘わらず、参加者の中にはこれが映画祭なのだと思われたいされた人たちが多くおられたようです。

なぜなら、今回のプログラムが本番の国際映画祭のようになり充実していたからです。ライブショーにトークセッション、それに海外から送られてきた新作劇場映画の上映など、盛り沢山の内容が参加者の皆さんを魅了しました。

加えて、今回のテーマの「祈りの時代」を考える「が、かつて祈りのまちであった奈良にふさわしいだけでなく、混沌とした現在、多くの人たちの心の琴線に触れたのかもしれない。

第1部の声明(融通念仏宗)と映像(高木正勝氏)のライブショーは、参加者の大半に深い感銘を与えたようです。会場でのアンケートに次のような感想文が寄せられていました。「このような声明と映像のコラボレーションはあまりにもユニークで驚かされましたが、次第に不思議なアートの世界に引き込まれていくようで感動しました」と。また、「声明のリサイクル

地域の人たちに深い感動を与えた「**祈りの時代**」を考える

第3回プレイベント

地域の人たちに深い感動を与えた

“



の長い活動の出発点のひとつと自負しています。また、それ以外にも、定期的なイベントを立ち上げ、人を呼び込むことができると考えています。たとえば、映画、音楽、演劇、その他の芸術、芸能を集めた総合芸術祭のようなものを民間の力で展開できないかと考えていたりしています。

我々奈良の人間には当たり前に見えていたものが実は当たり前でない、そんな本物がある奈良を見ていただきたい。数ある世界遺産のなかで、建物の存在しない世界遺産は、平城宮跡だけです。奈良の人間にとつては当たり前でも、外から見ればたいへん珍しいことでもあるわけです。そんなありのままを見ていただけの数少ないところが奈良には数多くあります。もちろん、ありのままの姿を堪能していただきたいのですが、ありのままということが今の奈良のままでよいということではありません。新しいものを取り入れたり、変化も必要です。また、民間によるイベ

ント開催には、それなりに制約もあるのですが、自己満足に陥らず、他府県や外国の方々の期待と奈良での活動の架け橋となるような、奈良に求められた方々に喜んでいただけるような、そのような視点をもって、さらなる展開を図っていきたくと思っています。

最初にも申しましたように、デメリットをメリットに変えることは、奈良を考える重要な視点です。本業以外の活動は23年に及びますが、その間に培ったネットワークが、今日の本業やそれ以外の活動にも大いに役立っていますし、それが民間による地域活性化ということにも微力ながら寄与することができているのではないかと思います。

1300年祭は、平城宮跡がメイン会場になるのですが、そこから東へ、また県内全域への導線が未整備のようにも思えるので、来年1年間、奈良を訪れる観光客が、県内全域にあふれるよう考えて

せんとくん・まんとかんをはじめ、奈良のキャラクターグッズがてんこ盛りのお店



絵図屋
奈良市橋本町36(もちいどのセンター街内)
TEL. 0742-23-3131
10時～19時 / 不定休 / <http://www.ezuya.jp/>

行く必要があります。その仕掛けは、民間の役割かもしれないとも思います。待ちの姿勢ではなくアクティブな行動力が必要です。

よく、地域を変えるのは、「よそもん 馬鹿もん 若もん」といわれたりしますが、先に言いました芸術祭のようなイベントから、場所と人材が育ち、ひいては奈良の良さを発信することにつながると思います。平城遷都1300年祭とは、まさしくその大きな出発点なのです。(談)



株式会社 明新社
本社/奈良市南京町3-464
大阪営業所/大阪市天王寺区上本町6-6-1
絵図屋/奈良市橋本町36
TEL. 0742-63-0661 (代)
<http://www.meishin.co.jp>

今月の企業人
株式会社 明新社
代表取締役社長 乾 昌弘氏

遅れてやってきたほんものの奈良を発信したい。

平 城遷都1300年というような記念すべきアニバーサリーは、いうまでもなく100年に一度のことです。そこに、このような立場で関わることには、まず感謝いたします。

受け売りになりますが、奈良は、他の都道府県と比べるとマラソンにたとえれば様々な面で周回遅れといってもいいほど遅れているけれども、周回遅れ故、振り返ってみるといつの間にかトップを走っている、そのような遅れが逆に魅力になっている、そんな話に感心したことがあります。選都1300年を迎え、奈良に風が吹いているのではないかと、奈良の魅力を内外に発信する好機だと思っています。今やらずして、という

阪神なんば線が開通して、目に見えて奈良に求められる方が増えているようですし、外国人観光客も増えていきます。今の奈良は、たとえば英語の観光パンフレットを発行するとか、そのような動きがあるにしても、まだまだ受け入れ体制が完全に整っていないといえない状況です。1300年祭をきっかけに、そんなことも含め、整っていかねば良いのではないのでしょうか。

民間の立場で申しますと、この1300年祭を一過性のものでせず、民間の活力でそれをさらに大きく広げていくということが課題です。私もでは、1300年祭をきっかけに、中心市街地活性化という意味も込めて、もちいどのセンター街の元の本社事務所に「絵図屋」を立ち上げました。小さなことではあります、民間ができる息

NARA 発信倶楽部 VOL.10
企業人に聞く
平城遷都1300年への想い
を聞かせてください

つる由 割烹
奈良市脇戸町212-1
0742-26-7798
奈良市福智院町2-1
0742-27-3025

環境への思いやりは、ひとへの思いやりは。
GOKUKEI 株式会社 五穀
〒630-0201 生駒市小明朝1348-1
TEL. 0743-71-7377 FAX. 0743-71-7378
<http://www.gokei21.co.jp>

今山本 おつくろい
細く長くのおつきあい
株式会社 三輪山本
〒631-0027 奈良県生駒市南郷9-9-1 TEL. 0741 83 8811 (代)
電話予約受付時間 10時～18時 休日はお休みです。
<http://www.sanryu.co.jp>

伊勢・鳥羽・志摩へは 近鉄特急で快適に!
近鉄
旅客案内テレフォンセンター
(9:00～19:00 / 年中無休)
06-6771-3105
<http://www.kintetsu.co.jp/>

四季折々美味探求
みざさ寿司や極の葉すし、創作すしの風味豊かな手づくり味をお楽しみください
株式会社 中谷本舗
〒631-0011 奈良市押熊町2141-1
TEL. 0742-49-5000 FAX. 0742-47-5330
<http://www.i.zass.co.jp>

奈良 豊澤酒造株式会社
奈良市今市町405番地
TEL. 0742-61-7636
<http://nara-toyosawa.jp/index.htm>

神宮の緑の里から
梅乃宿 万葉の浪漫が薫る 大和の地酒。
梅乃宿酒造株式会社
奈良県葛城市実家27 TEL. 0745-69-2121
<http://www.umenoyado.com/>

茶良のほんもの
麒麟 乾杯!
キリンビール株式会社 奈良支社
www.kirin.co.jp/kansai
奈良支社
数酒は20歳になってから。
飲酒運転は法律で禁止されています。



これからも「ずっと」
 あなたとともに……
南都銀行

あなたの未来は、
 私たちの未来です。
 あなたの大切な未来に向かって、
 南都銀行はあなたの
 頼れるパートナーで
 あり続けたいと考えています。
 これからも「ずっと」
 あなたとともに
 あゆみ続けていきます。

ナント・なら・ずっと!
NANTO 南都銀行
 本店:奈良市橋本町16
<http://www.nantobank.co.jp>

ナラヨム 第13号
平成21年5月15日発行

企画編集
奈良県立図書館

発行責任者
乾 昌弘

発行者
【ナラヨム発行委員会】
(株)明新社
キリンビール(株)奈良支社
梅乃宿酒造(株)
奈良豊澤酒造(株)
(株)中谷本舗
近畿日本鉄道(株)
(株)三輪そうめん山本
(株)互恵
割烹 つる由
丸山繊維産業(株)
奈良トヨベツ(株)
近鉄観光株式会社
(株)植嶋

編集協力
(株)読売奈良ライフ

題字
紫舟

本誌の無断複写・複製・転載を
禁じます。

編集後記



火というと、そこにある創造と破壊ということを考えます。ギリシャ神話によれば、人類に火を与えたのはプロメテウスだとされています。プロメテウスはゼウスの反対を押し切って人間に火を与えました。それまで人間は闇の中で野獣を恐れ、物を煮たり焼くことを知らず病気になるっていました。それでもゼウスは死すべき人間に火を与えることを拒みました。火を覚えた人間が神々に悪影響を与えるに違いないと考えたからでした。しかしプロメテウスはこれを黙って見過ごすことが出

を黙って見過ごすことが出来なかつたのです。とうとう彼は、天上の火を盗ることによりさまざまな知恵を持つようになったというわけです。激怒したゼウスは、プロメテウスをカウカソス(コーカサス)山の山頂に縛り付け、生きながらにして毎日肝臓をハゲタカに啄まれるという責め苦しを強いました。プロメテウスは不死であるため、彼の啄まれた肝臓は夜中に再生し、また啄まれるという永遠の責め苦を与えられたといわれています。

そのプロメテウスの苦悩は、火を手にした人間の苦悩を体現するものなのかもしれませぬ。今や我々はその知恵から第二の火(原子力)を手にし、新たな苦悩を背負っています。新たな創造と破壊です。現代のプロメテウスは人間自身であるといえます。

刀鍛冶や火祭りには、人間と火の原初的な姿を伝えているような気がします。人間が火を手にした喜びやそこから得た知恵を素朴な私たちで、現代の我々に見せているような気がします。

7色印刷・イベント・IT・セールスプロモーション・ノベルティ

株式会社 明新社
MEISHINSHA
URL <http://www.meishin.co.jp>
E-Mail info@meishin.co.jp

本社 630-8141 奈良市南京終町3丁目464番地
 TEL 0742-63-0661(代) FAX 0742-63-0660
 大阪営業所 543-0001 大阪市天王寺区上本町6丁目6番1号
 TEL 06-6771-4501(代) FAX 06-6773-0492
 もちいどの店 630-8217 奈良市橋本町36番地
 TEL 0742-23-3131(代) FAX 0742-26-0093


 M.P.S.
 20000116(02)
 印刷品質保証


 ISO 14001
 JQA-EM2026
 本社


 PRINTED WITH
 SOYINK
 環境にやさしい大豆油
 インキを使用しています。

お菓子の総合商社

株式会社 植嶋
www.ueshima-net.co.jp
本社 〒636-0193
奈良県生駒郡斑鳩町竜田2丁目2番11号
TEL (0745)74-1111F0 FAX (0745)74-0251

奈良・春日・炭山
伊日亭
TSUKIJI TEI

奈良市春日野町158
TEL.0742-26-2021

近鉄観光株式会社
<http://www.kintetsu-kankou.com/>

The Grand Suite
NEW ALPHARD
HSZ

奈良トヨベツ
TEL 0120-167-667
<http://www.saratom.jp>

蚊帳のルーツを大切に、
現行織物一筋。

丸山繊維産業株式会社
〒630-8371 奈良市生野町五丁目
TEL 0742-52-8881
<http://maruyama-fiber.com/>